

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社 日興社		①2024年2台の社用車(リース車)の入れ替えを行いました。 その際EV車も検討しましたが、なかなか車室容量等弊社の要求に見合う車種がなく、省エネ性能重視で車種を選定しました。 ②節電のために導入したエネファームが導入10年目を迎え、廃止が継続かを判断する時期となりました。一昨年の報告の様に一定の評価ができるため継続を選択しました。 ③廃棄物は江東区の収集基準に則り分別ヤードを設けております。 ④総排水量節減に向け定期的に水道メーターを確認して参りました。5年ほど前から漏水を示す数値が出ているため、出入りの水道工事店の協力を得て漏水箇所の特定に向けた努力をしております。しかし漏水箇所の特定に至らず、水道管の切り直し工事を2回実施するなど対策を講じて参りました。 工場・倉庫の解体に伴ない、改めて水道工事店を呼んで現地確認してようやく漏水箇所を特定、すぐに補修工事を行いました。その結果ようやく漏水が止まりました。 ⑤化学物質対策の推進のため、洗浄用トルエンの代替品の試験利用を行いました。 残念ながら洗浄力がかかり劣り、温度は比較すると低いものの、使用時間が長くなるため効果が少ないとの結論に至りました。 ⑥コピー用紙節減のため引き続き安全衛生協議会資料はタブレットまたはスマホへのデータ送信で対応し、印刷をしない活動を継続しています。	④ 水道使用量 2か月分 103㎡ ⇒ 42㎡
参加賞	アイカテックエンジニアリング株式会社		暑さ対策で空調服とは別に「空冷服」を社員に支給し、着用させた。	2024年1月～2024年12月の1年間
参加賞	株式会社市川工務店	けんけんぽ活動 (女性技術者のスキルアップ、活動しやすい環境づくりを提案する技術系女子社員の会)	「けんけんぽ」活動 女性ならではの悩みや働き方、スキルアップ等に関して部署をまたいで意見交流が出来る場としています。 女性技術者が少ない現状で、将来的なビジョンも含めた働き方、メリット、各部署や現場と一緒に仕事を行う社員や関連業者様との関わり方についても考えていきます。 https://www.icc-group.co.jp/kenkenpa/index.html 主な活動として、現場環境バトロールの実施 2024年度は3回(6現場)実施、社外座談会等への参加 弊社ホームページにて活動状況を公表しております。 けんけんぽ 技術系女子社員の会【株式会社市川工務店】 ※現場環境バトロールチェックリスト(新藍川橋作業所・自社元請現場)を添付	本活動によって、職場環境の改善、社員のモチベーションアップを図ることができ、女性が活躍できる職場であることをアピールすることができた。
参加賞	ミネ工業株式会社	解体工事業の環境経営の実践	・環境マネジメントシステムとして、エコアクション 21 参画 10年以上継続中 ・持続可能な社会の実現の取組として、横浜市が取り組む Y-SDGsのstandard を取得 (令和4年3月より認定) ・横浜市主催の Y-SDGs認証事業者交流会にて、他登録事業者の活動等についての意見交換を行う。 ・天然資源への配慮として、かながわトラストみどり財団への基金で緑地保全支援をして CO2 吸収 ・バックホウの燃料、軽油の代替燃料として、天然ガスから精製された液体燃料 GTL を積極的利用し、CO2 排出量削減 ・熱中症対策として、夏用ヘルメット採用(ミドリ安全) ・横浜市、脱炭素取組宣言に参加。	・2024 年度 GTL 利用 11,915L 28.1t-CO2削減 ・植樹寄付活動による緑地保全支援 CO2 吸収
参加賞	株式会社双葉資材	環境への配慮	① 作業所への通勤を電車通勤としCO2削減に配慮した。 ② 暑さ対策として空調服を作業員全員へ配布し作業員の体調管理に配慮した。 ③ 熱中症対策として作業時にこまめな休憩、水分・塩分補給を促し作業員の体調管理に配慮した。 ④ 低排出ガス・低燃費の建設機械(クレーン・バックホー・発電機等)を使用し環境に配慮した。 ⑤ TO-MINICAのCO2排出調査を毎月提出した。	電車通勤にすることでCO2削減に貢献した。 作業員から熱中症を1人も出さず作業を完了した。 TO-MINICAのCO2排出調査にも積極的に参加した。
参加賞	株式会社石井興業	・全社員参加の環境配慮型リサイクル・リユース活動 ・節水やグリーンインフラ利用、地産地消の副産物生産活動	1・社内リサイクルとリユース 事務所内で使用するプラスチック製品や紙、金属類のリサイクル。特にクリアファイル等は再利用資源集積センターへ送り、リサイクル車の報告を毎月行っています。(※リサイクル達成車の報告と共有) また、現場資材も関係配慮型資材グリーンインフラ素材を使用して廃棄物が出来るだけ出ない工夫を実施。 2・省エネルギーの実践 所内全ての照明をLEDへ変更、グリーンカーテンを計画的に生育し、オフィスの断熱化を強化して冷暖房効率を上げ、エコフレンドリーな空間を作り機能的にも癒される職場環境を作りました。 3・使用する車両系建設機械・揚重機械・トラック・ダンプに関しても、K-ES1(燃費向上により使用する燃料を削減し、排出ガスの有害成分を削減する燃料促進剤)を使用し環境性能に優れた燃料で稼働使用しています。環境負荷低減を図る為、オイル・ 그리스・ストン役・防炎シート類も環境性能に優れた次世代素材を使用したものを利用するように発注し継続使用しています。 4・継続的なエコワーク取り組みにより、本年度は使用電気量9%減(年間)、(紙を主体とする)事務用紙使用量5%減、(年間)、水道利用料ゼロ、(井戸水・雨水利用)を達成しています。 5・クールワークキャンペーンによる熱中症予防対策への取り組み ・工事現場での暑さ対策の取り組みとして「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」の継続も行っています。主な活動内容は①空調服購入補助(50%以上)による作業員の着用率向上、②現場作業員及び内勤従業員の冷却高性能繊維利用のユニフォームの配布、体を冷やす着替え用のTシャツ配布、自社にて栽培した梅干しの配布(塩タブレット等より体に負担が少ないオーガニック食品)、等社内をあげての熱中症対策に取り組んでいます。 ・地産地消対策として地域の畑で取れたさつまいもを自社で「干し芋」として客先等へ進呈しています。 安全大会で作業員に配布し、地産地消の副産物生産活動が作業員の連帯感も生まれ大変喜ばれています。	・継続的なエコワーク取り組みにより、本年度は使用電気量8%減(年間)、(紙を主体とする)事務用紙使用量5%減、(年間)、水道利用料ゼロ、(井戸水・雨水利用)を達成しています。 ・このような活動により、作業員同士の健康管理啓蒙にも実行実績があったと考えています。また環境活動を作業員・協力会社共に継続的な連帯感が出来たと考えています。特に地産地消の副産物生産活動が作業員の連帯感も生まれ大変喜ばれています。
参加賞	株式会社 雄電社	ハラスメント防止に関する取り組み	職場におけるハラスメントは社会的に許れない行為であり、会社にとっても職場秩序や業務の遂行を阻害し、社会的評価に影響を与える問題である。このため、当社では職場におけるハラスメント撲滅のため、次の施策を実施した。 1. ハラスメント防止マニュアルの制定 パワーハラスメントだけでなく、セクシュアルハラスメントや妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント全般についての防止策を2023年9月にマニュアル化し、社内イントラネット上で公開した。 2. 外部相談窓口の設置 ハラスメントの外部相談窓口を2023年10月に設置した。24時間365日メールでの相談が可能で、保健師、公認心理士、産業カウンセラー、社会保険労務士等が対応する。相談内容は相談者の許可を得ない限り会社にフィードバックされないため安心して相談できる環境にしている。外部相談窓口設置の案内は社内イントラネット上で公開した。 3. ハラスメント防止研修 2023年11月から2024年6月にかけて外部講師を招き、階層別にテーマを分けて研修を実施した。まずは社長以下取締役を対象に「ハラスメント予防における経営陣としての役割」を、次に管理職及び中堅社員を対象に「パワーハラスメント防止研修」を、最後に一般社員向けに「セルフケア研修」を実施した。事情のある者を除き、受講対象者の出席率100%を達成した。 4. エンゲージメントサーベイの実施 ハラスメント防止が主目的ではないが、従業員の会社や仕事に対するモチベーションを組織別に可視化する「エンゲージメントサーベイ」を2024年5月に実施。5月と11月の年2回、サーベイを毎年継続することで数値の変化を把握し、具体的な行動に繋げていく予定である。	研修受講者からアンケートを取得したところ、「パワハラ防止に関する理解は深まりましたか？」の問いに約91%が深まったと回答。
参加賞	株式会社加藤建設工業	カーボンニュートラルを目指す建設機械の取り組み	(目的)弊社は2023年度利友会環境アクション準大賞を受賞致しましたが、政府のカーボンニュートラルの目標である2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする取り組みでは実現できません。そこで、今回は前回準大賞を頂いた活動、燃料添加剤(h-Si)の使用の他に、バイオ燃料の実験を行い、持続可能なかどうかの検証を行いました。 (活動内容)弊社の武蔵プラント(土質改良プラント)において積込作業にて使用している0.7m3級バックホウの燃料をバイオ燃料(B30) 70/30パーセントの軽油と30/70パーセントのバイオ燃料を混ぜたもの) 変え、使用した際の機械の不具合、燃費の変化、燃料費の推移を観察しました。	(活動効果・結果) 使用機械コベルコSK-200 (使用時間12,055h) 使用燃料三和エナジーバイオB30 期間2024年8月1日～2024年10月31日(3カ月間) 使用時間 341時間 作業内容 土砂かきあげ、集積、積込作業 オペレーター 経験8年目 男性 使用燃料量 5260.8L 平均燃費 15.4L/h (軽油使用時平均燃費 15.2L/h) 燃料代金 1,262,592円(240円/L)(軽油使用の場合 710,208円 135円/L) (考察) ① 3カ月間B30を使用したがパワー不足や排気系トラブル、エンジン内に燃料が入る機械のトラブルは発生しなかった。 ② 途中オイル交換を行ったがオイルの匂い、目視、触った感じも特に問題なかった。 ③ 燃料の配達についても1日おきに配達してくれたので問題なかった。 ④ 燃費は軽油を使用していたのとほとんど変化がなかった。(15.2Q/h→ 15.4Q/h) ④ 製造の問題で軽油よりも価格が高くなっている。(78%アップ) 今回は3カ月間の使用に絞って実験してみたが、もっと長期で使用する場合に機械に不具合が生じるか、実績がないため心配なところがある。また燃料の値段は軽油に比べるとまだまだ高いのでこれが解消されないと、経済ベースに乗ってこない。補助金等の支援があれば検討していきたい。 カーボンニュートラルを実現していくためには今回使用したバイオ燃料B30から100パーセントバイオ燃料を使用しているB100を使用する必要があるので、機械的に大丈夫か、供給面はどうか、価格はどうかを今後検証していく必要があると感じました。
参加賞	株式会社 菊正塗装店	持続可能な開発目標 SDGs	現在までに、社用車(保有台数17)をガソリン車からPHVプラグインハイブリッド車・ハイブリッド車に前回の6台から今回前回と合わせて11台に買い替えました。 行く行くは全車ハイブリッド車さらに電気自動車(EV車)に変えていく計画です。	ガソリン消費量が以前の40%に減少したので、CO2の削減も効果がでたと思われます。
参加賞	開成鉄筋株式会社	エコカーと太陽光発電で環境を守る	①社有車の省エネ活動 ・社有車のハイブリット化及び、定期的な新型車の導入でCO ₂ の削減燃費の改善を実施 ②成田工場屋上に太陽光パネルと蓄電池を設置 環境に配慮した自家発電施設を用意することで、持続可能なエネルギー源として、停電時にも業務をとめることなく製品の安定供給を実施	電気使用量の削減、車両のCO ₂ 削減と燃費の改善
参加賞	平岩塗装株式会社	社有車からの排ガス減少。 熱中症対策。	・工事管理者の社有車をハイブリット車に順次変更している。 20台中7台を変更済み。 ・弊社の現場に従事している社員・工員及び弊社の仕事しかしていない専属の協力会社作業員全員に空調服を支給している。	
参加賞	トーシン工業株式会社	環境配慮型の材料の選定	特定化学物質無配合の1英液型ウレタン塗膜防水材の採用で、環境対応、施工効率、産業廃棄物の発生の抑制を行いました。	空缶はラミネート缶の為にリサイクルが可能になり、一液タイプの為二液混合タイプのものより使用する缶数の減少にもつながった。
参加賞	高砂熱学工業株式会社	現場事務所におけるカーボンニュートラル活動	カーボンニュートラル取組として、現場事務所運営において以下の活動を実施 ①太陽光発電設置 事務所屋根面に太陽光発電を設置し、事務所内100Vにて利用 ②人感センサー及び電源タイマーの設置 エアコンや照明にセンサー・タイマーを設置に消し忘れ防止等を実施 ③LED照明と外光採用 省電力照明の採用と外光利用による日中の間引き消灯を実施 ④空調温度設定 最適温度設定による省エネの実施 ⑤窓に遮熱シート設置 西日等の遮熱対策・光熱費削減 ⑥その他 室外機カバー設置	2024 年 6 月～2025 年 3 月までのCO2 削減効果 約3986kg

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	不二熱学工業株式会社	低GWP ノンフロンチラー Dear Cool の製品化による 温室効果ガス/環境負荷低減への取組	2025 年カーボンニュートラル、2030 年温室効果ガス排出量46%削減という目標に向け対応が進められています。気温上昇を1.5℃に抑えるためには、CO2 だけでなくHFCs 類の排出量削減が必須となります。しかしながら、空調機に関してはR32 の次の冷媒が未だ見通しが経っておらず、HFCs 類排出量が増加している状況です。欧州においては、自然冷媒（CO2、炭化水素冷媒）の採用が増加傾向にあります。今後、Fガス規制がさらに強化されていくことが予想されます。 このような情勢を鑑みて、当社は2020 年から冷媒としてR290（プロパン）を使用した空調用チラーの開発に取り組み、昨年2024 年4 月より「ノンフロンチラー-Dear Cool」を発売する運びとなりました。 <R290 の特徴> ・自然冷媒 ・低GWP 0.02 (R32 冷媒はGWP675) <製品スペック> ・電源: 単相200V 50/60Hz ・冷媒: R290(プロパン)ノ先填量 800g ・能力: 5000W(冷房)、5600W(暖房) ・COP: 3.01(冷房)ノ3.01(暖房) ・熱源サイズ: W952mm * D325mm * H1176mm ※詳細は別紙リーフレットご参照下さい。 東京都補助金(省エネ型ノンフロン機器普及促進事業)への適応機器としてご認定頂き、25 年度も継続を予定しております。	導入後の環境負荷削減効果: 既設空調機に対して、約20%(*1)のCO2 排出量削減を見込んでおります。 *1. 算定条件 (5.6kW タイプ空調機(R410A)機器からの更新、冷媒量1.3kg、製品の廃棄までに50%の冷媒が大気放出されると仮定 東京の事務所負荷と仮定、280 時間/月 運転と仮定。) 設置条件により削減量は異なり、上記は参考値となります。 * 実導入事例も現在施工中となり、今後拡大を進めていく予定です。
参加賞	福島防水株式会社	熱中症対策	熱中症対策として会社に専用の冷蔵庫を設置して飲み物(OS-1・麦茶・アクエリアス)を常備し、制限なく社員に配布した。また、塩分補給として、塩飴、梅干しを常備して社員に毎日摂取するよう指導した。 さらに、今年は空調服を高スペックの新製品に更新し、現場作業の工事部社員だけでなく現地調査に関わる営業課、業務課社員全員に空調服を支給した。また、社有車の社内温度低減のためにサンシェードを取り付けた。 【熱中症対策にかかった経費】 飲み物(OS-1・麦茶・アクエリアス): 93, 658円 塩飴、梅干しなど食物: 21, 750円 空調服 : 24人分 × 26, 000円＝624, 000円 サンシェード : 10台分 × 1, 200円＝12, 000円 合計 751, 408円	活動の成果もあり、活動期間を含む2024年1月～12月の間に熱中症患者は一人も出なかった。
参加賞	株式会社ユアテック	環境配慮・周辺地域の清掃活動「海ごみゼロ活動」の実施	湘ユアテックでは、環境省と日本財団が共催する海洋ごみ削減に向けた取り組みである「海ごみゼロウィーク」に参画し、地域の皆さまへの日頃の感謝の意を伝えること、ならびに東北・新潟をはじめとする事業エリアにおける豊かな自然を守るという観点から「海ごみゼロ」活動※を実施いたしました。 ※全体で当社およびグループ会社から1,659名が参加し、各事業所の河川および海岸等を中心とした65ヶ所で清掃活動を実施(ごみ袋回収数1,297枚) 宮城県については、10月10日と15日に県内事業所とグループ会社の438名にて太平洋沿岸(小豆浜海岸、吉田浜、渡波海水浴場、大谷海岸海水浴場)や河川周辺(名取川水系、北上川水系、七北田川、板板川、白石川)等の清掃活動を実施いたしました。 綺麗に見えても探せばごみが沢山あり、当日は、ペットボトル・ビニール傘・空き缶・パーベキュー用の網等に加えて、自転車・ガスボンベ・釣り竿等の大型のごみを収集いたしました。 ごみ袋回収数は186枚でした。 【参考】 サステナビリティ ユアテック 東北電力グループ https://www.yurtec.co.jp/sustainability/	本活動を通じて、海洋ごみ問題の解決に向けては、一人ひとりがルールを守り環境に配慮した行動を実践することが重要であることを再確認いたしました。 * 全体でのごみ袋回収数1,297枚
参加賞	株式会社 岡元タイル	環境配慮・作業効率の時短	・熱中症対策として全作業員に空調服を配布した。 ・作業所(現場)への作業員通勤車両を自宅から直行直帰することを推進した。 ・公共交通機関で通える作業員は積極的に利用することを推進した。・役員の通勤車両をハイブリッド車に更换した。以前の車両が9km/ℓ走行に対して入替後は22.2km/ℓと倍以上の燃費向上となった。	熱中症災害の報告はありませんでした。 目には見えませんがガソリン代が約50%削減しておりそれに比例し二酸化炭素の排出量も減少していると思われます。
参加賞	三晃金属工業(株)東北支店	A.高性能折板の開発	A.ZEBやカーボンニュートラルへの貢献の為、自社で高性能ダブルバックを開発。通常の二重折板と比較して約2倍の断熱性能を有する。2022年からの販売をしている。	A.オリンピック関連物件以降の導入事例はわずか。
参加賞	三晃金属工業(株)東北支店	B.社内システムの改善	B.2024年から社内のシステム(請求、支払い、発注、原価管理などの工事システム)を一変した。具体的には物件ごとの原価管理や発注をする工事システムと業者への支払を管理する仕訳システムが連動しておらず毎月その業務に手間をかけていた。それらのシステムを一つのシステムに統合することによって業務効率化に取り組んでいる。	B.昨年9月に改変のためデータは取得中。個人的な体感としては業務効率は上がっていると思う。前者としては2割の削減を目標としている。
参加賞	三晃金属工業(株)東北支店	C.施工の納め標準の設立。	C.施工での今まで有耶無耶にされていた部分(役物の継ぎ目処理手順や屋根の役物の角の取合い、開口部の止水処理方法など)を標準化した資料として作成。個人によってバラバラの解釈がある事柄を一定の水準を設けることで全社的の品質管理を向上させる。また若い担当者や若い職人へ向けた資料として知識や技術力の向上を目指す。	C.資料はわかりやすいとの評判。品質管理について現場で注意することが少なくなった。
参加賞	株式会社菅野左官店	鉄骨ベースモルタル作業における作業効率と品質向上をめざして	鉄骨建方における台座の鉄骨ベースモルタル作業において、作業員(職人)の技術力によってレベル管理等の品質及び作業効率がまちまちでばらつきがありました。 このばらつきを無くし、品質向上と作業効率を上げるために、工具を考案作成し取り組みました。	レベル管理の品質向上を作業効率が伸び、作業員の技術力にさほど左右されずに管理する事が出来るようになりました。
参加賞	株式会社菅野左官店	環境配慮型左官洗いの水の処理方	左官作業(モルタル塗り作業・補修塗り作業等)において使用した道具類の洗いを処理する方法として、土嚢袋を使用して洗いを渡し固形物と液体を分離させて処理する	分離処理する事により環境配慮活動として寄与する事が出来た。
参加賞	富士鋼材株式会社	倉庫・事務所環境活動	●社用車を環境の観点からハイブリット車に置換する事を実施した。 ●倉庫の外壁(天井)に耐熱塗装を施した。 ●倉庫天井クレーンの設備装置を新型に交換した。 ●輸送に関して納入先が同一の場合は積み合わせ便にて同一車両で納入する。 ●会社周辺の清掃活動に取り組んだ。	●輸送に関しては継続的なものでCO2削減・経費削減に貢献した。 ●倉庫の設備などを更新する事でエネルギー効率に貢献した。 ●清掃により環境保全に貢献した。
参加賞	住吉工業株式会社	環境に配慮した仮設事務所の設置 (CO2削減)	太陽光設備と現場仮設ハウスを一体化したソーラーシステムハウスで、環境に配慮 (CO2 削減) を目的として使用しました。 ① 太陽光の仮設ソーラーシステムを、設置だけで使用できる。 ② エアコン完備である。(追加工事なし) ③ バッテリーの電圧がモニターで見えるため電気使用量の管理ができる。 ④ 4tユニックにて運搬・設置が出来ることと設置後すぐに使用できる。	① 発電機無しで電気を使用することが出来た。 ② エアコンを一日中使用すると電力が足りなくなるので、電力管理が必要になる。
参加賞	株式会社 三陽	1. 社会関係 2. 品質管理 3. 社会インフラ関係	1. 社会関係・働き方の改善・健康増進・残業時間の削減 弊社では、働き方の改善・健康増進・残業時間の削減の活動の一環として、毎週火曜日を「ノー残業デー」と掲げ、社員全員が定時退勤を継続実施している。既に継続3年の実績を有している。社員からの評判では好評で、健康増進に繋がっている。家族の健康と家族の支えがatteの仕事・業務であり、今後も継続・推進していく。 なお、「ノー残業デー」の掲示・表示は、社内の情報システムにインプットして、社員全員が容易にアクセスでき、「ノー残業デー」が定着している。 2. 品質マネジメントシステムの構築とその運営の推進 (1) 目的:顧客満足 の向上 (2) 具体的な活動: 2024 年4 月に某民間企業並びに外部専門機関(ISOコンサル専門家)のコメント・ご指導をいただいたこと契機に、ISO 9001 の思想を取込んだ品質マネジメントシステム(QMS)の構築を同年8 月に構築・制定した。現在は、QMS 品質マニュアルを基に、より具体的な活動要領書を作成し、これに基づく文書化した情報「文書」「記録」「文書・記録」を順次作成し、その運営を地道に推進している。 このような活動において常にPDCAを回し継続的に改善することにより、製品・サービスの品質向上並びに顧客満足 の向上に繋がると考えている。 3. 社会インフラ関係 (1) 背景: 昨今、社会インフラ設備の老朽化によるトラブル発生が社会問題となっている。 (2) 活動内容: 身近なインフラ設備の中で、電柱の傾きが気になっており、当該電柱を管理する機関にその状況を2024 年2 月に改善・提案させていただいた。	上記3件とも、顕著な効果や結果は現れていませんが、地味で地道な活動を継続・積み重ねれば、必ずや結果はそれに対応した成果が現れてくると確信しています。
参加賞	(有)善村鉄筋工業	資源再利用	鉄筋のかぶりを確保する為 ドーナツを使用します 自社は再生プラスチック(ペットボトルのキャップ他)の製品ブラ・スターGを使用しています	ブラ・スターGの活用によりCO2 削減に貢献した。(別紙添付カタログ参照)
参加賞	ダイダイン株式会社中国支店	カーボンニュートラルへの貢献	1. 森林整備によるCO2 吸収活動 ・ 温室効果ガス排出量の削減や生物多様性の保全への取組活動として、森林の保護育成事業「ダイダンの森」として役職員やその家族、協力会社の関係者等で造林活動を行っている。 2022 年より岡山県小田郡矢掛町の森林で開始し、備中南森林組合の方々のご協力のもと2024 年11月に3 回目の活動を実施した。 2. 資源回収活動 ・ エコキャップ回収 再生プラスチックを原料として換金し、医療支援・ワクチン支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等の支援を行っている。 3. 清掃活動 ・ 社会貢献活動として店社周辺の清掃活動を週に1 回実施している。 4. 社用車の環境配慮 ・ 社用車及び車種選定にあたり環境仕様(燃費基準、排出ガス低減レベル基準、グリーン購入法への適合)を考慮している	1. ヤマザクラ、イロハモミジを計150 本植栽。 2. エコキャップを計5,590 個回収。 3. 1 週間に1 回、月に5 回実施。 4. 2024 年導入の社用車19 台全てにおいて環境仕様対応。
参加賞	株式会社 AOI	職場環境を整え社員の定着・新入社員獲得を目指して 事務所	①労働条件の見直し ・年間休日の拡充 ・特別休暇の拡充 ②働きやすい職場環境づくり ※イクボス宣言(2024.5.22) ※やまぐち と×いいく(2024.6.17 登録) ※誰もが活躍できるやまぐち企業(2024.10.1 認定) ・社員が能力を発揮し仕事と生活の調和を回り働きやすい雇用環境整備を行うために 制度について全社員に周知しヒヤリングを実施。 ・働きやすい環境整備と人材育成を実現するために多彩な福利厚生や資格取得支援・社内研修制度の提供を積極的に実施。 ③熱中症対策の強化 ・最新型空調服の支給 ・業務用冷凍庫を外にも設置	①活動効果(前年度比) *年間休日:15%増 *特別休暇:2 日増 ②活動効果 社員の将来の不安を取り除きライフステージに合わせた働き方の選択、有給休暇や特別休暇等を得やすい体制を整えることが出来た。 ③活動効果 熱中症災害ゼロを達成。社員の熱中症に対する意識も向上している。 クーラーボックス用の水やクールダウン用品・氷菓の常備数を増やすことが出来た。
参加賞	株式会社 石崎本店	本社屋屋上に太陽光パネル設置によるCO2 排出量の削減 及び所有車両の燃料消費費削減活動	1)本社屋屋上に太陽光パネル設置 自家消費によるCo2 排出量の削減 2024 年実績 1 月から12 月まで 太陽光発電電力量合計 35.730kwh 19.656t-CO2 の削減 それに伴う事務所内での省エネに対する取組み ・環境ワーキングチームを立ち上げて、省電力のポスター掲示や啓蒙活動 夏季 エアコン設定温度 26℃ 冬季 エアコン設定温度 20℃ ・エコポイント還元活動 ワーキングチームによる社内バトロール ユダナ電力使用を見つけて指摘 2)社有車の燃料消費削減への取り組み 月度の運転管理日報による車両毎の燃費効率の把握 ・日々の運転計画を共有して同業移動や公共交通機関の利用の奨励 ・遠方への移動の場合は燃費の良い車両を使用することを徹底 ・ガソリン車→HV車への変更 EV社の検討も行ったが断念	太陽光削減効果 19.656t CO2 燃料使用によるCo2 排出量 2023 年度 183.8t Co2 2024 年度 178.0t Co2 ▲3.1%

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社泰成重機	省エネシステム『Gモード』を搭載したクローラークレーンを新車購入し燃料消費を削減した	メーカー名コベルコ建機 機種名 Mastertech 7120G 型式 7120-G 2 最大吊り上げ能力120 t XS、Om 活動作業所 日本光電工業株式会社 島新工場新築作業所 クレーン稼働期間2024年9月2日～2025年3月14日(約5ヶ月間) 使用燃料軽油に「K S 1」を添加(約10%の燃費向上) 『Gモード』とは 「アイドルストップ」「Gエンジン」「Gウインチ」の総称 ロ省エネ運転を可能にする「アイドルストップ」 業界で初めて採用。 待ち時間などは、安全を確認したうえで自動的にエンジンがストップ。 マニュアルアイドルストップを設定すると、オペレーターの意思によりアイドルストップが可能。 □「Gエンジン」 最大エンジン回転数を制御し燃費効率のよい範囲での運転を実施。 一般的なクレーン作業で約10%の燃費改善効果がもたらされた。 □「Gウインチ」 無負荷または負荷が軽い場合、高速モードの使用によりエンジン回転数を上げなくても最高ラインスピードでの巻上げが可能。 新たに、旋回中および起伏中でも作動するよう機能アップ。	クレーン稼働期間、6ヶ月間に使用した軽油・・・5,964 Q (K-S1を添加) Gモードを搭載により、約10%の燃費改善、K-S1添加により、約10%の燃費向上。 よって、20%の燃費改善及び排出ガス中のCO2が削減され、地球温暖化防止へ貢献した。
参加賞	小松ウオール工業株式会社	未来につなぐ！サステナブル&ダイバーシティ経営の推進	①SBT認定と活動の推進(スコープ1、2について20230年度までに2019年度比50%削減) ・2023年4月より本社及び工場の電力を北陸電力株式会社の提供する「グリーン特約(かがやきGREEN)」に切り替え、2024年からは全国の拠点も再エネ由来の電気に切替えを実施しています。 ・全国で保有する社有車(全392台)のハイブリット化を拡大させています。 ②ダイバーシティ経営の推進に向けた人材育成 ・女性の活躍推進ワーキンググループを発足し、製造業では少数派になりがちな女性の視点を取り入れた提案を通して、新たな組織文化の醸成だけでなく、参加者自身の育成やキャリア意識の向上を目指しています。 ・2024年4月にすべての部門長を対象にハラスメント教育を実施しました。その後、教育を受けた部門長自身が講師となり、それぞれの部門、支店でハラスメント教育の展開を実施しました。	・再エネ由来の電気の切換え達成率:本社・工場100%(2023年)、拠点59.7%(2024年) ・ハイブリット車の切換え達成率 :392台中、142台切換え済 :36.2% ・女性の活躍推進ワーキンググループ提案数:3件、セミナー実施:2回 ・ハラスメント教育実施部門(すべての部門で実施済):本社19部門、拠点69拠点
参加賞	遠藤硝子株式会社	エコアクション21取組みにおける環境活動の継続	環境保全活動1事務所での空調機械の設定温度の厳守 環境保全活動2車の適正使用心がけ、自動車燃料の削減に努める 環境保全活動3会社内での節水を心がける 環境保全活動4産業廃棄物のリサイクル率を向上する 環境保全活動5環境配慮型商品の営業活動を推進する	二酸化炭素の排出削減への寄与、節水の実現
参加賞	株式会社 タケエイ	継続的な再生可能エネルギーの利用に取組み、全社的なCO2削減による環境負荷の低減に貢献する。	① 事業所への太陽光発電設備の導入 一昨年(2023年)、直轄事業所4拠点(川崎RC、東京RC、塩浜RC、車両基地)への太陽光発電設備(太陽光パネルもしくは太陽光パネルと蓄電池)を導入設置し、稼働運用させている。昨年(2024年)には東北支店で稼働しているグループ会社であるグリーンアローズ東北(宮城県岩沼市)に太陽光パネルを2月から3月にかけて施工設置し、4月には本格的に稼働運用している。こちらは、工場棟の老朽化とスレート屋根であることから、写真のような余剰地への野立による設置を実施している。 ② 収集運搬車両のEV化への検討 昨今の化石エネルギーに頼らないことを考慮すると、当社の運用している数多い車両も徐々にではあるが、環境対策を整える必要がある。その一環として、試験運用的にEVパワーゲート車を導入している。 これに伴って、物流基地の太陽光発電設備を増強し、産業用蓄電池を設置することで、より一層、自然電力を利用することができるようになる。これによりパワーゲート車との併用により、物流基地全体の脱炭素化を推進させる方向で施工を実施している。実際の工事は12月に着工しているが、本年(2025年)からの本格運用の開始を予定している。	① 事業所への太陽光発電設備の導入 東北支店の太陽光発電設備が稼働したことにより、全社として、年間1,480,428 kWhの電力量を自家消費することができている。これを脱炭素量に換算すると、年間757,978 kgの二酸化炭素を削減できていることになる。 また、太陽光発電設備を設置したことで、一部事業所内にてEV重機を導入した。 ② 収集運搬車両のEV化への検討 太陽光発電蓄電設備は設置、施工中のため、実質的な効果は本年(2025年)からになる。
参加賞	株式会社浪花組 東京本店	安全衛生委員会	左官工事に於ける主な事故の対策として、可搬式作業台と回転式電動工具に特化した。 可搬式作業台は使用時に巻き込まれない様、車手の着用を禁止し皮手袋、切削用手袋を作業員に配布した。 また、年六回「安全だより」を発行し、各作業現場に配り災害事例等も踏まえ繰り返し注意喚起を促した。 一人の不注意や横断による不安全行動に起因する事故が会社全体に与える影響を説明した。	一年を通し可搬式作業台、回転式電動工具による事故は起こさなかった。
参加賞	不二サッシ株式会社 東京支店	アルミニウム製品のエンボイドカーボン削減	日本の建築業界では建築物のホールライフカーボン(原材料、調達、製造、施工、使用、解体、廃棄までの全過程で排出するCO2)削減が急務とされている。特に、省エネ法等でカバーされていた建築物の使用段階(オペレーショナルカーボン)に比べて、それ以外の段階(エンボイドカーボン)が目立っている。 当社は、アルミニウム製品のエンボイドカーボン削減のため、主に三つの取り組みを行っている。 1. 鋳造アルミリサイクル車の継続的向上(昨年度応募内容の継続) 鋳造工程では押出の前工程としてピレットを生産する。その原材料は、大別するとアルミ新地金とアルミリサイクル材(スクラップ)に分けられ、千葉事業所では建屋屋上に太陽光発電所を設け、リサイクル材については全量リサイクルを達成している。 アルミ新地金は精錬時に大量の電力を消費するため、温室効果ガスを大量に排出する。一方、アルミ製品の廃棄時に回収できるアルミリサイクル材は精錬せずに溶解して再利用可能であるため、アルミ新地金からアルミリサイクル材への転換は、製品原材料に関わる脱炭素・資源循環型社会の実現に大きく貢献できる。なお一般に、新地金に比べてアルミリサイクル材は、原材料として約97%もの二酸化炭素排出量削減になると言われている。 2024年度は、千葉事業所における鋳造時のアルミリサイクル率が70%を超えた。さらなるリサイクル率向上のため、技術開発やアルミスクラップの外部調達に関する他社との協業を進めている。 2. 自社工場使用電力の再生可能エネルギー化 建材のエンボイドカーボン削減のためには、製造段階の取り組みも必要である。新たにPPAで太陽光発電所を増設した(2025年4月稼働開始)。発電量を基にCO2排出削減量を計算すると85t/年/に相当する。 また、当社のもう一つの基幹工場である不二ライツメタル棟本社工場においても、2024年度に初めて建屋屋上に太陽光発電所を導入した(PPA、2024年4月稼働開始)。発電量を基にCO2排出削減量を計算すると85t/年/に相当する。 3. アルミ建材のライフサイクルアセスメント第三者認証取得(予定) 上記2つを含む種々の取り組みの効果を正しく環境価値として示すために、アルミ建材のカーボンフットプリントを含むライフサイクルアセスメントの数値的可視化が必要であると考えている。 そのために、日本唯一のEPD(Environmental Product Declaration = 環境製品宣言)第三者認証機関(SuMPO)に検証を申請し、2025年4月現在、EPD取得のための審査を受けている。	鋳造アルミリサイクル率約70%超(千葉事業所年間平均値) ・不二サッシグループの2工場で太陽光発電所増設、年間約1700t-CO2削減(半分は2025年4月～) ・アルミ建材のライフサイクルアセスメント算出(※第三者機関の審査中のため数値は開示できません)
参加賞	イワキ産業株式会社	気候変動対策	昨年に引き続き空調服及び空調ファンの支給。 空調服より空調ファンの消耗が激しい為、ファンのみが必要な作業員にはファンのみを。 両方必要な作業員には両方支給しました。	熱中症災害の報告はありませんでした。
参加賞	日本コンクリート工業(株) 名古屋支店	環境対策 CO2削減	CO ₂ を約4割削減した環境負荷低減型バイル(グリーンONAバイル)の製造。 ＜特徴＞ 自社製品であるエコタンカル他を用いた環境負荷低減型バイル。 コンクリートに由来のCO2排出量を従来のバイルに対して、約40%を削減。 JIS A 5373に準拠したPHCバイルの耐力をクリアし、従来のPHCと同等の製品として使用可能。 ・エコタンカルはコンクリート二次製品工場のボイラー排ガス中の二酸化炭素(地球温暖化ガス)を固定化して製造した環境にやさしい製品です。 エコタンカル1kgあたり1リにつき、約40gのCO2が固定化されています。 コンクリート二次製品工場内で発生する高アルカリの廃棄物を反応させることにより、高純度の炭酸カルシウムが製造できます。また同時に高アルカリ廃水の中和も行われるため、硫酸などの薬剤を低減できます。	グリーンバイル出荷実績杭本数342本杭重量2,396t
参加賞	株式会社 滝沢重機興業	公共交通機関活用によるCO2削減 (7ターゲレン回数削減)	公共交通機関活用により ラッパターレン回数を減らすことでCO2の排出量を削減する	
参加賞	株式会社石野内装	省エネ	当社、倉庫照明灯を全機LEDに切り替えた。(約15台)	電力使用量が約20%削減された。
参加賞	株式会社駒井ハルテック	再生可能エネルギーの活用	当社では、設置場所の気象、地形条件等にあった風力発電機の開発・生産に力を注いでおり、当社富津工場ないにも2006年9月に1号機を、2014年2月に2号機を稼働しています。これらの風力発電機は継続的な研究・開発に資するとともに、生み出された再生可能エネルギーは富津工場における鉄骨・橋梁の生産工程の動力源として利用されています。	風力による発電量が、富津工場の全使用電力量に占める割合(風力発電寄与率)は年間約8.1%となっています。
参加賞	株式会社 弘電社	CO2排出の削減	①i-PADのスイパダープラス活用による現場チェックの試用【前回項目継続】 ・期待効果:紙での社員間の引継ぎが減り印刷物削減 ・実施細目:紙検測定利用、現場チェック利用 ②重量物搬入でタワークレーンの積極的利用【前回項目継続】 ・期待効果:ラフタワークレーン等の使用を削減し、重機往復及び揚重燃料消費分を削減 ・実施細目:受変電の橋重(見込60t以上級/1回の燃料節減) ③社内の部門毎のバトロールを極力同一日程化する【前回項目継続】 ・期待効果:現場担当者の対応時間が減少の方向となるので、微々たるものだが現場事務所のエネルギーの削減となる。 ・実施細目:工事部門管理者のバトロールと品質部門のバトロールを組み合わせる。	①i-PADのスイパダープラス活用による現場チェックの試用 店社スタッフによる支援の為、現場の盤面を店社でも印刷するなど相互で紙が発生し紙の削減はなかったと思われる。 今後、作業方法を画面閲覧化に慣れていく必要あり。 照度の印刷が見やすい測定点の大きさにならず調整の為、試し印刷などがあり、紙の削減まで至っていないと思います。 ⇒今後、システムの特性を考慮し作業していいと同時にスイパダー側へも不便な点を指摘する。 ②重量物搬入でタワークレーンの積極的利用 ＜実施結果＞ 現場の都合等でタワークレーン利用が思うようにならなかった事例もあり、引き続き継続していく。
参加賞	株式会社 サンヒコ	工場プレカットによる資材原料削減	弊社の主たる事業の内、内装下地工事の壁下地材(スタッド材)については、メーカーがプレカットに対応してくれることに着目し、階高または天井高に合わせたサイズのスタッド材を現場に納品することを徹底している。 例えばφ65mmのJISスタッドの場合、定尺は2700mm、3000mm、3500mm、4000mmの4種類であるが、プレカットはmm単位での対応が可能であるため、より細かくオーダーすることで材料ロスを削減することが可能である。 ただし、図面では計算が困難な床不陸精度、梁形状などの要因があるため必ず現場にてレーザー測定器による全数実測が必要である。さらにプレカット工程に約2週間必要なため、通常より早い時期での事前打合せ、現場調査、発注作業が必要になる。 下記は、昨年施工したのバイロットインキみよし工場事務棟新築工事(第二期後半)における間仕切材(スラブ下のみ)における実際のオーダーサイズと本数、定尺で注文した場合との削減率を示したものである。 バイロットインキみよし工場事務棟新築工事(第二期後半)では、工場プレカットにより全て定尺で注文した場合と比較して、9.0%(重量では514kg相当)削減することが出来た。	弊社施工の工事現場では、ほぼ全てプレカットでの対応をしている。一現場で上記の数量削減効果があることから、年間では約5,000kgの材料ロス削減を実現している。 材料歩留まり率向上の環境効果は、多岐に渡るため正確な数値を算出することは出来ないが、メーカー工場での原材料削減、加工に伴い発生するCO2削減、運搬時発生するCO2削減、スクラップ材を再利用する際に発生するCO2の削減に貢献している。
参加賞	長谷川工機株式会社	①環境配慮型燃料K-S1導入による燃費の向上 ②通勤車両をハイブリッド車に入替	①関東支店購買部様より環境配慮型燃料の紹介があったのがきっかけ。 環境に配慮しながら燃費の向上も図れるとの事で、2021年6月より保有する25tラフター1台に試験的に投入、現在に至る。ここで問題なのがラフタークレーンが1台前の作業所に長期間留置きとなるケースが頻いし、費用対効果の分析は難しいです。現状はK-S1紹介時の実績データに基づき、「少しでも環境に配慮出来れば」程度の取組です。2023年4月からは所有するトレーラー1台にも投入を開始、検証中です。 ②重機の現場通勤車両をハイブリッド車に入替えた。以前の車両がℓ/7km走行に対して、入替後はℓ/18km走行と倍以上の燃費向上となった。	①2020年(K-S1使用前)1年間:258日稼働/燃料使用量が13,139ℓ(1日平均:50.93ℓ使用) 2021年6月K-S1使用開始～12月:173.5日稼働/8,875ℓ(1日平均:51.15ℓ使用) 2022年1年間:281日稼働/14,705ℓ(1日平均:52.33ℓ使用) 2023年1年間:293日稼働/13,545ℓ(1日平均:46.23ℓ使用) 2024年1年間:204日稼働/7,816.3ℓ(1日平均:38.32ℓ使用) ②既存で使用していた車両(ℓ/7km走行)に対して入替後の車両(ℓ/18km走行)となった。

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	向井建設	作業所において土壌改質材(ワトル)を使用した。	機械土工事において、環境に影響を与えるセメント・石灰系改良材を極力減少させ、自然環境にやさしい土壌改良材を普及し、環境改善の貢献に努めた。 ・ワトルの特徴 PS灰(ペーパースラッジ灰)の持つ高い吸水性能により泥土改質に即効性があり、時間経過に伴い強度が増加し数日の養生期間でヘドロが良質土に生まれ変わります。汚染・河川・湖沼での浚渫土改質や、陸上での掘削工事に伴って発生する泥土や汚泥の処理に適切です。またセメントのように固結しないので改質土の再利用が可能です。ワトルは泥土の改質のほか、中性改質材、消臭機能を持つ改質材としての機能があります。 ・中性改質材ワトル自体のpHは10を遥然し、1程度アルカリ性材料です。混合当初は改質土のpHが10〜11となるが、改質土を湖中発生する事でpHは徐々に低下しpH8.5(環境基準)以下となります。 ・その他の効果 1. 改質後、土砂の粒度改善特性があり、盛土材として利用できる。 2. 多孔質なので消臭効果もあり吸水改質なので、有機質土の改質が可能。 3. アルカリ性の建設汚泥をほぐし造粒技術で改質し、炭酸ガスで中和させることで植栽可能な盛土材として利用可能。また炭酸ガスは改質土内に炭酸塩として固定されるため、カーボンリサイクルへの貢献が可能。(CO2削減効果) 4. 水を汚染させない改質材	・ワトル使用実績 戸田建設株式会社・NRT14 320袋(224t) アベニュー高輪前川ビル 36袋(25.2t) 計:249.2t 他社(1袋:700Kg):さいたま市西堀 24袋(16.8t) RJR王子 150袋(105t) 計:121.8t 合計:371t
参加賞	株式会社 アスノ	環境配慮を意識した取組み	①社内のリース車輛を、入替え時にハイブリット車へ変更 ②社員駐車場の緑化・敷地内花壇の植栽 ③ペットボトルの分別 ④環境に配慮した備品(コピー用紙等)の購入 ⑤社員による社内清掃 ⑥エコアクション21活動	①Co2排出量削減 ②ヒートアイランド現象緩和・生態系保全・都市緑化への貢献 ③リサイクル品質の低下を防ぐ ④省資源化 ⑤美化・環境配慮への意識付け ⑥廃棄物の削減・3R推進
参加賞	城北電気工事株式会社	斉藤孝一	1. 省エネルギー 太陽光発電の利用により電気使用量の削減 冷暖房設定温度の調整持続(夏は28度、冬は22度) 夏はブラインド等により直射日光を遮断し、冷房効率を向上させる。 非使用箇所の消灯及び消灯時間の設定(昼休み等) エコ運動の取組み(自宅が近隣の従業員には自転車通勤を薦める) 2. 廃棄物減量化 ゴミ分別・廃棄物の細分化(3Rを推進、実行) 環境問題(食品ロスの削減等)に配慮した社員教育の実施 働き方改革や業務効率化による就業時間(残業時間等)を短縮 3. その他 車輛のハイブリッド化及び新型車の定期的な導入で燃費向上 急発進、急停車を無くし省エネ運転の励行 交通ルールに則り安全運転を実施	弊社の活動は、2024年4月1日〜2025年3月31日です。添付資料は2カ年分としました。 結果につきましては別紙参照(『電気使用量比較表』2カ年分)。 車輛の燃費は、ハイブリッド化を進めていて今年度も2台更新しましたので効果は出ています。 使用電力量は、目標計画案は達成できませんでしたが前年度実績よりも改善しました。3・4月が計画を上回る一方で他10カ月は計画通りに近いデータとなっています。 このように確実に細かい努力が生かされているという結果を励みに令和7年度も継続致します。
参加賞	ヒロセ株式会社	地域社会への貢献	荒川の清掃活動への参加 ヒロセ社員ならびに、ヒロセグループ社員一人ひとりが清掃行動を通じて、地域社会に貢献できたと実感することで、改めてSDGs(持続可能な開発目標)や環境保護の重要性を再認識する。 ヒロセグループは「豊かな暮らし」に貢献するため、地域社会へ貢献する活動を続けてまいります。	2018年より毎年1回活動に参加を継続。2024年度は45リットルゴミ袋を45袋のゴミを回収しました。  
参加賞	ヒロセ株式会社	SMW工事におけるCO2削減工法の採用	SMW 施工時のCO2 および汚泥の発生量を削減するため、ECO-MW工法を提案している。SMWからの変更に際して、以下の点で対象となる現場に対して、提案を行っている。 ①先行削孔がないこと(先行削孔のセメントに反応して薬材料が増、また品質管理が難しいため) ②対象土 がローム、凝灰質粘土 当 粘性が特に高い土質でないこと(効果が出にくいため) 以上のことを考慮して提案を行っています。	2024年は該当現場がありませんでした。引き続き、2025年もSMW工事において提案をしていく。
参加賞	(株)藤井工務店	若手が入職してくれる魅力ある持続可能な建設業界へ	・職場環境・待遇改善 1年間の研修期間があり先生がついて指導 キャリアプランの提示 月給制・土日休みを選択できる 有休を初日から10日使える 惜り上げ寮がある 職人の少数グループ制の廃止、全員が若手の指導者という意識づけ 宿泊優待券などの福利厚生等の充実 ・採用活動強化 新しいHP作成 インスタグラム等にて日常風景の発信 YouTubeにて会社紹介、型枠工事についての動画の発信 学校訪問にて先生に弊社の魅力を伝える活動 高校生向け企業説明会に参加 ・定着の為の取り組み 社内フットサル大会や抽選会などの交流の場を増やした 1年間の研修期間で学生から社会人になる為の助走期間と考え意識し指導した 簡単なハードルを設け、達成させることで成功体験を築き仕事の面白さを少しずつ伝え 若手には先輩の若手職人をつけて相談や質問など話しやすい環境づくりを行った 今後のキャリアプランの話や、型枠職人の未来の展望、悩み相談を副社長面談にて行った ・やる気のある若手へのチャンスの創出 見込みのある若手職人にタイミングをみて少しずつ現場で様々な挑戦をさせ自信をつけさせた	新卒採用数増加 2024年度新卒採用13名(第二新卒も含む)以前は2名程度 活動後入社者の直近新卒定着率17/19 89% 以前は入社3年以内新卒定着率10%程度 若手職長増加 20代職長3名誕生 以前は50〜60代の職長がメインで最年少は38歳
参加賞	株式会社 スズプロ	お客様報告資料のペーパーレスの推進	弊社では受注工事が完了すると、お客様に工事完了報告書(工事保証書・自主点検報告書・施工写真・ご承認図面)を編集、カラー印刷して社内関係各所に回覧し確認、訂正を行い、最終決裁者に再度カラー印刷して提出・承認を仰いだ後、お客様提出用を印刷、1件の報告書作成に40枚程度のカラー印刷を行っていた。更にお客様提出用と社内保管用の2冊の表紙を印刷、製本してお客様に郵送し、社内控えをキャビネットに保管していた。 活動では、従来のカラー印刷を止め、Eメールによりパソコン画面で社内確認・決裁を行うと事とした。また、お客様への報告を郵送からEメールの添付ファイルに変更した。 加えて、5年間保管されていた社内控えの冊子をスキャニング作業によりデジタルデータで保管する活動を加え、大型キャビネット3段分の保管スペースが削減できた。	活動期間 2024年10月〜12月 紙使用量の削減 840枚 (40枚×21件)、経費節減 52,920円(カラー印刷@20×840枚、表紙印刷@1000×21件、送料@720×21件)。 小さな活動ですが森林資源の保護、電気使用量・物流の削減によりCO2排出量削減に繋がる活動であり今後も継続し、他の業務のペーパーレスの推進にも活動を広げて行きたいと考えます。
参加賞	株式会社 姥名建設	使用済み型枠Pコンのリサイクル事業の取り組み	SDGs達成に向けた取り組み 型枠Pコンリサイクルの取り組みについて 型枠工事にて使用不可欠な金物Pコン。従来使用済みPコンは、現場から資材センターへ返却され、軸(鉄)とPコン枠(プラスチック)に分別して、枠の部分は産業廃棄物として処分を行っていました。(年間約72,000個、会社によって違いはありますが、Pコンのプラスチック枠の原料は化石燃料です。ゴミとして焼却処分すると大量の温室効果ガスが排出されます。) そこで、Pコン取引先の岡部株式会社様の提案にてEcoPコンの取り組みを説明をして頂き、つかう・あつめる・リサイクルーまたくする。にてSDGsやカーボンニュートラルという背景のもと、弊社も少しでもリサイクル事業の一環になればと考え、岡部株式会社様と共に取り組みに賛同しています。 つくる責任、つかう責任として、Pコンにはプラスチックと鉄が使われています。どちらも有限の天然資材ですのでリサイクルをして可能な限り有効活用しています。又、廃棄された場合に引きつく最終処分場は残余年数が問題となっており、処分場の負担軽減にも貢献しています。	
参加賞	川本工業株式会社	工事記録の一元管理	受注時に決められた構成の現場フォルダが自動作成され、受注から竣工、アフターフォロー等段階別に記録を社内サーバーに保存する。	工事に関連するデータの散逸を防ぐ目的で10年以上運用。必要な情報を業務システムから検索することにより、工事中〜竣工後にわたって営業活動や保守・メンテナンス・改修工事等に役立てられるものとなっている。
参加賞	川本工業株式会社	技術系若手社員の技術力向上のための勉強会	2024.04.26・躯体図の見方やスリーブの基本 2024.05.24・管及び継手の種類・材質やめっきの種類と特長・異種材料の接続・ねじの種類と特徴 ・ガasket等・管の支持 2024.06.24・バルブ類の種類や特徴 2024.07.19・ダクトの基本 2024.08.28・ダクトの基本・換気計算 2024.09.27・保温材・外装材・補助剤 2024.10.25・外構 2024.11.27・品質に関する事例 2024.12.25・区画貫通処理 2025.01.31・耐震 2025.02.26・自動制御	月1回若手社員のための勉強会を開催することにより、基本をおさらいしつつ、質疑応答を通して理解を深めることに役立った
参加賞	三晃金属工業株式会社	施工品質・工程・安全・環境といった課題解決に配慮した施工改善製品の使用	主に駅舎・ホーム上屋や夜間作業施設、屋内プール施設、プラント施設等の特に火災発生リスクの高い物件において、溶接不要の屋根地下(無溶接タイトフレーム 製品名:ガッチリタイト)を使用。	溶接不要のため、CO排出量削減に貢献。 溶融金属めっき鉄骨梁に損傷を与えず、品質保持が容易となった。意匠壁面や床面等に対しての火花発生が不要であり、工程調整が容易かつ労務費削減につながった。
参加賞	株式会社 北川組鉄工所	5S活動による業務改善と作業率アップ	活動内容としては各部署より人員を集め3チーム(1チーム/4名〜6名)を作り事務所・工場で5S活動とムダの改善活動行っている。 ①1ヶ月単位での5S安全シート・活動計画を基に活動(3定(どこに、なにを、いくつ)・明示など) ②週に一度の各チームでのミーティングを行い、5S活動進捗とムダ作業の問題改善の抽出 ③3チームでの月一にて活動内容・改善内容の報告会の実施。	・5S活動については目に見えて良くなっている。周りからも「こうしたらどうだ?」「こうしてほしい」等の声が自主的に上がってくるようになり、作業率アップにも繋がってきている。
参加賞	會澤高圧コンクリート株式会社	多文化共生の職場づくり - 外国人労働者が安心して働ける環境へ	①社宅制度の整備 来日した外国人労働者の住居確保を支援するため、社宅制度を設けています。共同生活を前提に会社が住居を用意し、家賃は給与から一定額控除する形で運用。日本で賃貸契約が難しい現状を踏まえ、安定した生活環境を提供しております。 ② 日本語能力向上のための資格手当 職場の円滑なコミュニケーションと生活適応を支援するため、日本語能力試験(JLPT)の取得を奨励。N3以上を取得した社員には毎月資格手当を支給し、日本語学習を後押ししています。 ③ 労働環境の調整とキャリア形成支援 外国人労働者がスムーズに帰国できるよう、年間労働力レンダーを作成し、1月・2月にまとまった休暇を取得できる体制を整えています。これにより、母国への帰省や十分な休息を確保しやすく、仕事と家庭の両立を支援しています。また、当社では外国人役員も在籍しており、国籍を問わず昇進は努力次第でキャリアアップできる仕組みを構築しております。※現時点でベトナム国籍1名、ミャンマー国籍1名 ④ 家族での来日・就労支援 外国人労働者が家族とともに日本で生活できるよう、配偶者のパート雇用を支援。週28時間以内の勤務で、コンクリート補修や報告書作成業務を担当できる体制を整え、家族全体の安定した生活をサポートしています。 ⑤ 生活と業務のサポート体制 各工場に対応する外国語と日本語が堪能な事務員を配置し、仕事や私生活の相談窓口を設置。業務支援だけでなく生活面の困りごとにも対応し、より安心して働ける環境になれるよう努力しております。	特に④において、外国人配偶者スタッフの雇用により、育児による人員不足を補い、業務の継続性を確保しました。さらに、突発的な補修業務の受注にも対応し、現場の負担軽減に貢献しました。加えて、これにより外国人労働者の収入面にも寄与し、安定した日本での生活を営めるよう支援することができました。

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社前田産業	① 空調服を着用し、作業効率アップ(新規15着購入) ② アドブルー使用により有害物質の大気への排出を減少 ③ ハラスメント対策	① 空調服を着用し、作業効率を上げる(継続的な取り組み) 空調服を着用すると涼しくなるので、熱中症を予防できると共に、作業効率の向上につながっている。 空調服着用で、体力が温存できるので、連続作業が可能となっている。又、夏場の嫌な臭いの原因の多くは汗で雑菌が繁殖してしまうのを防ぎ、服の中を常に換気してくれるので、雑菌の繁殖を抑え衛生的である。 ② アドブルー使用により有害物質の大気への排出を減少(継続的な取り組み) 解体現場で使用する重機の燃料は軽油を使用。ディーゼルエンジン車の排気ガスをきれいにするためにアドブルーを使用することで、地球環境に有害とされる窒素酸化物を分解し、大気への排出を減少させている。 ③ 全社員対象に毎月『ヒアリングシート』をメール配信し、何らかのハラスメントを受けていないか調査を行っている。受けている社員は一人で悩み抱え込まないように、又、ハラスメント行為を行うことがないように、毎月調査を行うことで抑止力になっている。 お互いのいいところを認め合い、思いやりを持って業務に取り組める環境作りを行っている。	
参加賞	株式会社川口建設	社員の働き方改善と次世代育成支援の取り組みについて	1 全社員の1ヶ月あたりの残業時間を20時間以内とする。 全社員の残業時間集計を行ったところ、半数以上が20時間以上の残業となっていた為、アンケートの実施を行った。(資料1) この結果で色々な要因が把握出来たため、下記の内容を実施した。 ・主に残業時間が多かった建築部をグループ化し、社員のスキルアップ及びグループ長(次期工事長)を担える人材を育成した。 ・システムの導入で効率化の実現(テレビ会議を率先して実施) ・事業拡大に向けた必要人員数産出。対外的な事業PRと共に採用計画・育成計画の設定。 2 子育て中の社員が働きやすい制度を刷新 建設業も近年は女性社員も多く活躍しているが、弊社の従来の制度では子育て中の社員のニーズをカバーできていない状況。このため「子どもは社会が育てる」という方針のもと、下記の内容を実施した。 ・多様な働き方に対応するため、テレワーク制度の導入 ・「子どもの看護、育児目的休暇」(小学校3年生まで)、「産後バハ育休」など子育て関連休暇を有給化 ・男性社員の育児休暇を取得しやすい業務カバ体制の実施	・2024年度は全社員の残業時間15.5時間と大幅に削減できることができた。 また社員が働きやすい環境への取組みで北九州市の女性活躍・ワークライフバランス表彰で「奨励賞」を受賞することができた。
参加賞	株式会社三國	宿舍の利用を見直す	宮城方面での業務の際、作業者が仙台営業所を宿舍として宿泊利用している。 その中で、環境に配慮して下記の活動を行った。 ① エアコンフィルターの清掃 冷暖房の効率を上げ、エネルギー消費を減らすために、各部屋のエアコンフィルターの清掃を実施。 ② 分別ルールの周知・簡略化 今まで宿泊者が個別にごみ出しをしていたが、分別ルールがわからず困っていた。 分別ルールを共用部に掲示し、各ごみ種類に応じた大容量のごみ箱を新たに設置し、分別をわかりやすくした。 ③ 窓断熱の実施 窓ガラスに断熱用のフィルムを貼りつけ、冷暖房の効率を上げエネルギー消費削減に努めた。	・電気代、灯油代の削減に成功(＝エネルギー消費の削減) ・正しい分別によりリサイクル率向上
参加賞	有限会社中村内装	環境保全を意識した取り組み(コスト管理・労働環境の整備)	① 社内照明器具を従来の蛍光灯からLED照明に変更 ② 暑さ対策において空調服の支給・使用	① 社内使用電気量22%減(年間) ② 熱中症災害ゼロを達成
参加賞	中幸建設有限会社	持続可能な未来へ	昨年に引き続き地区の福祉施設のインクルーシブの畑をデザインし、自然栽培農学校を開催。 地球にも体にも優しい野菜作りを障害を持った方も一緒に学びました。	参加された方々が畑を借りたり、プランターで植えたりと実践され、確実に環境意識の向上がみられました。 障害者のかたも参加され一緒に作業をする体験を通し健常者と障害者の壁がなくなりました。
参加賞	三愛クリーナー株式会社	技能実習生の育成	(1) ビルクリーニング技術を身に付ける ・ビルクリーニング技術を身に付けるために、難しい日本語を使わずに説明をして作業しているところを見てもらい、一緒にを行い、実際に一人でやってもらう。 ・行動して覚えられようように、経験できる場を準備して実際に道具の準備から作業まで行動して覚えてもらう。1人でできるようになったら任せしていく。時には、すべての正解を言わなくていい。成功・失敗体験を経験する。その体験から次回同じ場でも過去の経験を思い出し行動できるような振り返りの大切さを覚えてもらう。 (2) 考える力・視野を広げる ・ビルクリーニング技術の基礎が身に付いたら、仕事内容の説明から必要な道具や作業方法を自分で考えて行動する。 ・周囲の状況を見て自分が次に何をすべきかを考えて行動したり、相手とコミュニケーションを取りながら進捗状況の確認をして、効率よく仕事できるようにする。 (1)・(2)より、学んだ技術と考える力が身に付き 仕事を安心して任せられるように成長する。また、今後社外に出た時でも技術・考える力・視野の広がりによる状況判断力を発揮できるようにする。	
参加賞	株式会社エフ・ケー	・CO2排出の削減 ・電力使用量の削減	・社有車をハイブリッド車に変更 ・事務所を、断熱塗料へ塗替え 地球温暖化の影響で、年々気温は上昇しており、夏場の建物内の室温上昇は空調使用の増加を招いている。 断熱塗料を屋根・外壁塗装に導入し、表面温度上昇を抑えて冷房使用を抑制することができる。	二酸化炭素の排出量、ガソリン使用量の削減 エアコン使用料の削減
参加賞	株式会社阿野組	環境配慮型燃料	① 作業所において環境配慮型燃料(K-S1)を建設機械に利用した。(2025年2月から)	・2025年2月からの作業の為 今後環境配慮型燃料の活動効果・結果を報告
参加賞	SKK株式会社	環境配慮型燃料の利用	① K-S1の使用 燃費向上の効率がある添加剤「KS-1(戸田建設推奨)」を使用。 ② GTL燃料の使用 環境負荷の少なく軽油対比でCO2排出量を8.5%削減することが出来る軽油代替燃料を使用。 ③ アドブルー使用により有害物質の大気への排出を減少 掘削重機、ダンプ等で軽油を使用する為、排出される窒素酸化物を窒素と水に変換し、大気への排出を減少させている。	CO2排出量削減
参加賞	奥村組興業㈱	働き方改革	残業時間の低減として、なるべく残業しないように促しております。 ハラスメント対策として、毎週水曜日を帰社日にし、報告しやすい環境作りをしております。 作業所への通勤車両は、ハイブリット車にし、CO2削減活動をしております。 熱中症対策として、社員全員に空調服を支給しております。	熱中症 発症者ゼロ 社員の離職者低減
参加賞	株式会社関電工	温室効果ガスの排出量削減の取組	地球環境問題が深刻化する中、私たちは企業活動のあらゆる面で環境保全対策を組織的かつ効率的に進めることが、健全な生息地の多様性を守り、持続可能な社会の実現に寄与すると考えています。 2022年1月に『2050年 温室効果ガス排出量実質ゼロ』を掲げましたが、2023年度からは、目標達成の実効性を高めるため、2030年 再エネ導入100%により、『2030年 温室効果ガス排出量▲50%(2020年度比)』にも取り組んでいます。 更に、関電工は、グリーン電力証書と再生可能エネルギー由来の電力を購入しています。	2024年度の温室効果ガス排出量は集計中で▲16%の目標 2020年度比で2022年度の温室効果ガス排出量は▲4.1%の削減
参加賞	日起建設株式会社	環境配慮型素材の新ユニフォーム(作業着)の採用について	・以前のユニホーム(作業着)は、スタンダード(素材／ライトツイル ポリエステル65・綿35%)の多機能作業着でした。 ・SDGsと環境配慮への貢献と社員の働き方改善(活気を出す)目的で、環境配慮素材(ケミカルリサイクル素材)を使用したユニホーム(作業着)を採用した。また、スポーツメーカーの作業着を使用する事で、スタイリッシュ及びストレッチ性に優れた動きやすい作業着となった。 ＜2025 年1 月年賀式での集合写真＞(新ユニホームキックオフ！) ・古い使用済みのユニホーム(作業着)を購入したメーカーに引き取ってもらい、リサイクルしました。	2024 年社内にて協議を実施。2025 年1 月より新ユニホームでのスタートとなりました。 全社員約200 人×3 着分600 着分を環境配慮素材ユニホームにする事より、リサイクル活動に大きく貢献した。 また、社員も自社のユニホームに活気づき、業務の生産性向上につながった。(今年度の新入社員からもスタイリッシュと好評でした。)
参加賞	株式会社 千田工業	弊社工場で使用するフォークリフトをディーゼル車からバッテリー車への転換	今回提出の活動事例は前回からの継続で『弊社工場で使用するフォークリフトをディーゼル車からバッテリー車へ転換』です。 ディーゼル車からバッテリー車へ転換する事で①ランニングコストの削減、②作業環境の改善を目標として活動させて頂きました。 ランニングコストについては上記の金額となり15,100円程度バッテリー車の方が優位になります。 但し消耗品コストではバッテリー交換費は含んでいますが故障(修理)は含んでおらず、実際には修理無く稼働する事は現実的ではありません。バッテリー車の場合は構成する部品が高額な為に一度壊れると高額な費用が必要となり年間コストの差額を懸念すると実際にはバッテリー車の方がランニングコストが高くなるかと推測致します。また車両に対する資産価値もディーゼル車の方が高く推移している事や低速から力強くコントロールし易い作業性等を考えると総合的にはディーゼル車の方が良いと考えられます。 しかし昨今の環境問題を考えると環境性能についてはバッテリー車は無公害な為に本車両に勝るものではありません。騒音問題、排気ガスに含まれる浮遊粒子状物質による健康への悪影響を考えるとバッテリー車への転換が急務と考えられます。順次、ディーゼル車をバッテリー車へ転換し、騒音減少とCO2排出削減に努めて参ります。	ディーゼル車をバッテリー車へ転換した結果、工場内又は作業場でのディーゼル車による騒音減少と排気ガスによる不快感が明らかに減少した結果、作業環境の改善は勿論、それらを気にする事なく作業に打ち込め作業性のUPIにも繋がりました。騒音減少とCO2排出量削減に効果がありました。
参加賞	株式会社 糸庄	ガラスリサイクル	弊社取扱いの建築用ガラスと一般ガラスに於いて、不要となるガラス端材等を種類別に集積し、弊社と契約しているリサイクル会社に引き渡し、再資源化活動を行っています。	2024年度実績 ①板ガラス 2,810Kg ②網入ガラス 1,110Kg
参加賞	宮本産業株式会社	Co2削減の取り組み	①燃費向上の効率がある添加剤「K-S1(戸田建設 推奨)」を使用。 ②太陽光発電による電力供給を行いCo2排出量の削減に取り組んでいる。 稼働開始は、A所:2015年～、B所・C所:2018年～、です。	①2024年10月～12月の実績2.13㏩(現在も使用継続中、2025年1月～3月 5.9㏩) ②2024年度の年間実績は、 A所:650,000kWh、B所:83,000kWh、C所:14,000kWh、発電総量747,000kWh Co2削減量換算値0.5045kg-CO2/kWh → 376.86t(杉の木26,900本、または灯油169 KL分に相当)
参加賞	向井建設株式会社東北支店	ボトルキャップのリサイクル促進によるCO2削減及び発展途上国の医療支援活動	2015年に「ボトルキャップ10万個プロジェクト」として活動を始め、2021年10月にはプロジェクト収集目標の10万個を超え、当初の目標を達成しました。その後継続して行っており現在に至ります。 小さな取り組みではありますがコツコツと継続して行っていることで、毎年入社する新入社員はもちろん、全社員に活動目的が共有され、現在では「あたり前」の活動として定着しています。 また、集まったボトルキャップは各部署毎に分けて計量し、各部署毎に競わることによりそれぞれが自分事として捉え、毎年収集個数が大きく減ることなく継続できています。 活動の流れ ①東北支店・東北六県の実業所・寮・グループ会社などに呼びかけ、ボトルキャップの収集を呼びかけ支店に集約し保管 ②集まったボトルキャップは、各部門毎に計量する。 ③ある程度集まった段階で、NPO法人エコキャップ推進協会の収集袋に入れリサイクルセンターへ運搬 ④協会から受領個数・累計個数・CO2発生量が記載された受領書が届く。 ⑤各部門毎の収集個数と累計個数の一覧を、メールにて社員へ報告し更なる周知を行う。	・2015年から活動しており2024年8月現在、累積収集数265,052個。累計のキャップをゴミとして焼却した場合のCO2発生量 1,941.66kg削減(キャップ1kgで約3,150gのCO2発生)
参加賞	株式会社 東和	救命救急に対する取り組み 環境に対する配慮	＜救命救急に対する取り組み＞ ① AEDの設置を行い、使い方の講習と簡易的な救命救急についての研修を行いました。 ＜環境に対する配慮＞ ② 営業車4台をハイブリッド車に切り替えを行いました。 ③ 現場作業を行っている社員に対して、空調服を支給しました。	①危機の使い方を学び、救命救急についての意識を高めました。 ②まだ期間が短いため燃費の向上に関する効果は明確ではありません。 ③今年の熱中症による休業はありませんでした。

選考結果	会社名	活動テーマ名	活動内容	活動効果・結果
参加賞	株式会社 LIXIL	アルミリサイクル材を活用した環境価値の向上	弊社では、脱炭素・資源循環社会の実現に貢献する為、業界に先駆け「プレミアム(PremIAL)」シリーズを立ち上げ、アルミリサイクル材を活用した低炭素型アルミ形材として、ビル用形材より展開を開始しています。25年以上にわたリアルミリサイクルに取り組み、業界トップクラスのリサイクル率を実現していました。アルミリサイクルへの取り組みを事業化し環境価値向上へ繋げ、世界へ発信しています。	御社現場での実績はまだありませんが、コスト統合センター(サッシ発注窓口)には今後も提案活動を続け、2025年の採用実績を獲得したいと考えております。
参加賞	東光工事株式会社	残業時間の削減について	・残業時間の削減 ①2024年度より本社に施工業務部を新設 主な役割として大型現場、初めての代理人担当現場、繁忙現場を中心に現場の支援活動を行った。 具体的には、計画書作成、施工図作成、試験調整等 ②ミドルオフィス業務への移管 現場で行っていた事務業務及び技術社員以外でも行える軽微業務を事務系社員に移管した。 ③残業時間のモニタリング 毎月10日、20日に月間残業時間を予想。36協定超過する恐れがある現場・社員に対してヒアリングを行い、状況によっては施工業務部及び事務部門等で支援を行う。	活動結果につきましては、現在、社内にて集計中でございます。
参加賞	ジャパンパイル株式会社	当社グループのサステナビリティ戦略「気候変動への取組」、「働きや各営業拠点、製造拠点、本社各部門すい職場の実現」、「ガバナンス体制の一層の充実」について	ジャパンパイルはアジアパイルホールディングス(以下APHD)の国内事業子会社です。APHDグループは、中期経営計画(2024年度～2028年度)「新5ヵ年計画」において、目指す姿と基本方針として「基礎建設業界を代表し、高い専門性を有するリーディングカンパニー」を掲げ、事業戦略とサステナビリティ戦略を策定しました。その概要や「気候変動への取組」については詳細をホームページで開示しました。(添付資料1・2) 当社は、「コンクリートパイル」、「鋼管杭」、「場所打ち杭」の全ての杭種について設計・製造・施工を一貫して扱う総合基礎会社であり、顧客からの発注を受けて建物や構造物の基礎部分を施工します。特に主力事業である国内コンクリートパイル事業については、自社工場や協力工場で生産したコンクリートパイルを自社で開発した工法により施工することになります。従って、当社が受注を獲得する為には、製品の品質は当然として、製品の工事現場への輸送工程や、その地域の地盤特性および多種多様な建物・構築物に応じた最適な施工方法が求められます。国内大手ゼネコンを始め各元請業者の環境意識も高まっており、当社はゼネコン各社と協働して最適な基礎建設を提供しサステナビリティ社会に貢献したいと考えています 以下、最近の取組事例をいくつか紹介いたします。 ＜気候変動への取組＞ ・照明器具のLED化(茨城工場、山梨工場、岡山工場、山口工場) ・蒸気養生ボイラー燃料を重油から都市ガスへ切り替え(滋賀工場) ・岡山工場、山口工場の電力を再エネ特約電力へ切り替え ・茨城工場建屋屋上に太陽光パネル設置 ・2023年度よりCDP質問書による情報開示に取組。2023年度・2024年度とも「B-」の評価取待。 ＜人的資本:働きやすい職場の実現＞ ・別添コーポレートガバナンス報告書「抜粋」(添付資料3)ご参照 ・安全対策の推進(安全衛生基準マニュアル策定、工場出荷作業等での安全対策強化等) ＜ガバナンス体制の一層の充実＞ ・取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任の強化のため、2024年6月に指名・報酬諮問委員会設置。	・「気候変動への取り組み」、「ガバナンス体制の一層の充実」については前述のとおり。 ・「人的資本:働きやすい職場の実現」は別添コーポレートガバナンス報告書抜粋の通り。 ・当社の労災防止への取組が、月刊「コンクリートテック/2025年4月号」で紹介されました。(添付資料4
参加賞	玉木工務店	メッセージアプリ等使用による上のコスト削減 ペーパーレス化	従来安全品質資料・伝達・配車などコピー配布やFAXなどで行っていたが、現在メッセージアプリやメールなどを使用し、各職長・作業員に伝達している その中で秘匿性の高いもの(個人情報・災害品質関連資料などは職長以上幹部のみとして確認・伝達後残らないよう消去するようにしている。配車などは今までFAXで行っていたが現在はメール・アプリのみとしている。	1年間でおよき500枚以上のペーパーレス化はしているはずです。
参加賞	株式会社タツタ	環境配慮	営業車のうち1台をハイブリッド車に変更 弊社事務所の照明をすべてLEDに変更	カタログスペック上ですが従来のものよりもCO2削減をできた
参加賞	丸紅建材リース株式会社	・排出ガスの低減 ・熱中症対策	・営業活動及び工事管理業務にて使用する社有車をハイブリッド車に順次変更している。 25台中15台を変更済み。 ・弊社の現場管理及び工場業務に従事している社員全員に空調服を支給している。	・Co2排出量削減 ・熱中症発症者ゼロ
参加賞	尾花興業株式会社	手元作業員少数化	作業員が減少及び高齢化の為、少しでも作業員作業を減らしたいと思い 弊社で作業に応じたアタッチメントを制作し重機作業にて作業員を減らすことと作業能率を回りたいと思っています。	
参加賞	有限会社 田中建設	高校生対象建設業セミナーからの新卒者採用までの取り組み	高校生対象の建設業セミナーにて新卒者採用までの取り組みを発表	3Kや収入が少ない 雇用条件が厳しいなどのイメージが払拭されないまま若者以外にも親御さんや学校省職員のイメージとして残っている。専門学校に出向きセミナーを開催して少しでも理解を得るように進めている。入職後の離職防止にも力を入れる